

東京都足立都税事務所長賞

「未来につながる私たちの税」

足立区立 第七中学校

三年 菅原 理梨香

「いつから税の制度が確立されたのか。」それは遡ること飛鳥時代。七〇一年の「大宝律令」で租・庸・調という唐からの均田制にならった税の仕組みが日本で初めて確立した。ではなぜ、税制ができたのか。当時この仕組みを取り入れようとした人々に直接聞くことはできないが、恐らく日本の国家を整備していくのに必要な制度だったからではないか。私は税のことを調べながら、税の重要性について考えていた。

今、私たちの世代が真剣に税について考えていかなければならないそんな時期にきていると思う。毎年増え続ける国債費、日本近隣の諸外国との関係悪化による防衛費の増大、地震や大雨による災害からの復興費、新型コロナウイルス感染予防の対策費、少し考えただけでも多くの支出があることが分かる。これらはすべて税でまかなわれている。限られる税がどのように活用されているか見てみると、国の歳出総額が約百十四兆円に対し、社会保障関係費が約三十六兆円と歳出総額の三十二パーセントを占めている。これは高齢化社会が進み、医療費や介護給付費、年金を支払うための費用がかかるためだ。一方で、東京都の歳出については、歳出総額約八兆円に対し、福祉や保険、教育と文化、警察と消防が約一兆円ずつの割合となっており、都民の生活の質の向上につながる財源の分

配になっていると感じる。

私の父は病気による後遺症で、身体が不自由になってしまった。そのため家の風呂に手すりを付けたり、可動式のベットの用意したり生活が一変した。これらには多額の費用がかかるが、税による支援制度があったため、父の場合は全体の1割負担で済んだらしい。これも社会保障という形で税が私たちの生活を支えてくれたおかげだ。父が今までのように働くことが難しい中、私は今高校進学を進路を決めなければならぬ。家計の負担を考えるとなるべく公立高校へ進みたいが、魅力のある私立高校も多数あり、選択肢の一つにしたいという思いもある。そんな中、「授業料軽減助成金」の存在を知り、私立高校も視野に入れてもいいよと母に言われた。これも東京に納めている税からの助成のおかげだ。この助成があることによって、私のように進学先の選択肢が広がっている人も多いのではないだろうか。

このように自分が苦しい状況になった時にも安心して暮らしていけるのは、税の仕組みがあるからだ。私たちの社会のいわば会費である税を皆で納めることで、自分たちの生活を守っているからだと思う。人によって受けられる税の恩恵は内容も時期も異なるかもしれない。しかし、誰もが安心して生活できる社会を築くために、税の仕組みは必要不可欠なのだ。私たちの未来を支える税について、これからも考え続けていきたい。